

# オリヴィエ・シャルリエ with PAC「チャイコフスキー&ベートーヴェン」 PROGRAM

## チャイコフスキー:弦楽セレナード 八長調 op.48 (約30分)

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Serenade in C major, op. 48

- 第1楽章 ソナチネ形式の小品:アンダンテ・ノン・トロツポ - アレグロ・モデラート  
Pezzo in forma di Sonatina: Andante non troppo - Allegro moderato
- 第2楽章 ワルツ:モデラート テンポ・ディ・ヴァルス  
Walzer: Moderato Tempo di Valse
- 第3楽章 エレジー:ラルゲット・エレジアーク  
Elegie: Larghetto elegiaco
- 第4楽章 フィナーレ(ロシアの主題による):アンダンテ - アレグロ・コン・スピリット  
Finale(Tema Russo): Andante - Allegro con spirit

— 休憩 (20分) — Intermission

## ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61 (約45分) ★

Ludwig van Beethoven: Violin Concerto in D major, op.61

- 第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロツポ  
Allegro ma non troppo
- 第2楽章 ラルゲット  
Larghetto
- 第3楽章 ロンド:アレグロ  
Rondo: Allegro

ヴァイオリン:オリヴィエ・シャルリエ Olivier Charlier, Violin

指揮:齋藤 友香理 Yukari Saito, Conductor (★出演曲)

管弦楽:兵庫芸術文化センター管弦楽団 Hyogo Performing Arts Center Orchestra

2016 4/27(水) 2:00PM開演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホール

主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

※演奏時間は目安となります。前後する可能性がありますので予めご了承ください。

オリヴィエ・シャルリエ with PAC「チャイコフスキー&ベートーヴェン」/これさえ見ればわかる! 今回の聴きどころ

これさえ  
見れば  
わかる!

## 今回の聴きどころ

片桐 卓也(音楽ライター)

### 弦楽器のソロ、合奏の楽しさを存分に味わう

オーケストラの中で最も人数が多いのは弦楽器。交響曲でも弦楽器の音色は味わえるが、今回は弦楽器だけの「セレナード」、そしてヴァイオリンの独奏が活躍する「ヴァイオリン協奏曲」というプログラムで、弦楽器の魅力を堪能したい。

チャイコフスキーでは名ヴァイオリニストであるオリヴィエ・シャルリエがオーケストラの中で一緒に演奏し、リードする。そしてベートーヴェンの協奏曲ではソリストとして演奏。こちらの指揮は、昨年のブザンソン国際指揮者コンクールでファイナリストとなった齋藤友香理(ドイツ・ドレスデン在住)が担当する。

チャイコフスキーの「弦楽セレナード」は4つの楽章から構成されているけれど、それぞれの楽章が個性的で、チャイコフスキーらしい旋律の魅力もたっぷり。テレビCMなどに使われている部分もあるので、聴いたことがある旋律が登場するかもしれない。

### ライターおすすめ「必聴ポイント」



チャイコフスキー:弦楽セレナード 八長調 op.48

#### 第1楽章の「序奏」が第4楽章で再現される

「弦セレ」と呼ばれ親しまれているこの作品、特に第1楽章の冒頭部分の「序奏」のメロディが有名で、それが第4楽章で再現される。懐かしい何かに再会した、そんな感じがする。

ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61

#### 意表を付く第1楽章の始まり方

古典派時代の協奏曲の場合、まずオーケストラが主題を演奏し、それからソロが入ってくるが、この曲の場合、まずティンパニが印象的なリズムを刻み、それが各所に登場する。

#### 第1楽章のカデンツァは、どんな版を演奏する?

ソリストの聴かせどころとして第1楽章の最後に置かれるカデンツァ。ベートーヴェン自身はこれを書かなかった。ヨアヒム、クライスラーなどの版を弾く人が多いが、今回は?

## PROGRAM NOTE

曲目解説 — 演奏をより深く楽しむために 片桐 卓也(音楽ライター)

## チャイコフスキー:弦楽セレナード 八長調 op.48

初演:1881年10月30日 サンクトペテルブルク(公式初演)

## モーツァルトへの敬愛を秘めた傑作

チャイコフスキーはペテルブルク音楽院を卒業後、1866年にモスクワに移住し、モスクワ音楽院で教えることになった。それは12年間続き、その後はヨーロッパ各地を転々としながら作曲活動を行っていた。その時期に書かれたのがこの「弦楽セレナード」で、作曲は1880年。モスクワ音楽院に勤めるようになった時期からの友人であったチェロ奏者のコンスタンチン・アルブレヒトにこの作品は献呈されている。

この少し前の1876年に富豪の末亡人メックから資金援助の申し出を受け、作曲活動に集中できる環境を得たチャイコフスキーは、交響曲第4番(1876~77年作曲)をメック夫人に献呈した。ふたりは直接会うことはなかったが、手紙を頻繁にやり取りするようになった。彼女に宛てた手紙の中でチャイコフスキーはこの「弦楽セレナード」に関して、第1楽章は「モーツァルトの様式を意図的に模倣した」と書いているが、セレナードというジャンルはモーツァルトが得意としており(例えば有名な「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」など)、特に第1楽章に付けられた「ソナチネ」という単語はモーツァルトを意識したものだだろう。編成は弦楽5部。オーケストラの弦楽器奏者が全員で演奏出来る訳だが、チャイコフスキーは、その弦楽器奏者の数は多ければ多い方が作曲家の意図に合う、とスコアに書き込んでいるという。

全体は4つの楽章から構成されるが、第3楽章と第4楽章は繋げて演奏される。第1楽章は序奏付きだが、その序奏の音楽は第4楽章の最後に再現される。第2楽章はチャイコフスキーらしい軽快なワルツ。第3楽章は「エレジー」と題された静かな楽章。その最後の和音から第4楽章につながる。第4楽章はロシア民謡のメロディによる主題が、最後に第1楽章序奏の主題が再現される。

公式の初演の前に、モスクワ音楽院の学生コンクールで演奏した。1881年の公開初演ではエドゥアルド・ナプラヴニク(チェコ人の指揮者でロシア在住。チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番のロシア初演も指揮した)が指揮を担当した。

## 楽器編成

弦楽5部

## Profile

## ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー (1840~1890)

ウラル地方の鉱山技師の息子として生まれ、最初はサンクトペテルブルクの法律学校へ進み、官吏となるが、音楽への意欲は消えなかった。1861年21歳の時にペテルブルク音楽院に入学。卒業後はモスクワに移り作曲家として活躍する。1875年にピアノ協奏曲第1番を発表。その翌年には大富豪の末亡人メックが援助を申し出て、ようやく作曲に専念する環境を得る。数々の名作を書いた後、交響曲第6番「悲愴」の初演直後に亡くなった。

## ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61

初演:1806年12月23日 ウィーン

## 作曲家中期の傑作。雄大な世界が広がる

ベートーヴェンはピアノ協奏曲を5曲残したが、ヴァイオリンに関してはこの二長調の協奏曲1曲だけが残された。ベートーヴェンは20代後半から難聴に悩み、1802年には「ハイリゲンシュタットの遺書」と呼ばれる弟たち宛の手紙を書いたほどだが、その精神的な危機を克服し、1804年頃から次々と傑作を発表し始める。それ以降の時期をベートーヴェンの中期と呼ぶが、その時期の傑作のひとつがこの「ヴァイオリン協奏曲」である。作曲は1806年で、同時期の作品には交響曲第4番、ピアノ協奏曲第4番、弦楽四重奏曲「ラズモフスキー」の第1~3番などがある。

このヴァイオリン協奏曲は、ウィーンのテアター・アン・デア・ウィーン劇場の管弦楽団でコンサートマスターとして活躍していたフランツ・クレメントを独奏者として想定して書かれた。協奏曲の作曲過程で、ベートーヴェンはクレメントのアドヴァイスも受けて書いたとされている。また、初演の時までに完成していない部分もあり、クレメントはそこを初見で演奏したという。

全体は3つの楽章から構成される。長大な第1楽章の冒頭は、まずティンパニが印象的なリズムを叩き、その上で管楽器が伸びやかな主題を歌う。さらに第2主題が木管楽器から始まり、次第に楽器の数を増やして行き、ひとつの盛り上がりを作る。このオーケストラの主題提示部に次いで、ようやく独奏ヴァイオリンが登場する。オーソドックスだが、雄大なイメージを喚起する第1楽章である。そして最後には独奏ヴァイオリンによるカデンツァが演奏される訳だが、ベートーヴェン自身はこのカデンツァを書かなかった。そのため、後年のヴァイオリニストたち、特にこの協奏曲の再評価に力を尽くしたロマン派時代のヨアヒムや、その後のアウアー、クライスラーなどの書いたカデンツァを使うことが多い。またギドン・クレーメルのように現代の作曲家シュニトケが書いたものを使う例、ベートーヴェン自身がこのヴァイオリン協奏曲をピアノ協奏曲に編曲した際に書いたカデンツァを編曲して

使う例もある。

第2楽章はラルゲットの変奏曲、そして第3楽章は独奏ヴァイオリンが提示するロンド主題による力強いフィナーレである。

### 楽器編成

独奏ヴァイオリン、フルート、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

## Profile

### ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827)

ケルン大司教領であったドイツの都市ボンに生まれる。祖父の代からケルン選定侯の宮廷に勤める音楽家一家であった。ハイドンに才能を認められ、1792年にウィーンへ移住。ハイドンなどに師事しながら、ピアニストとして頭角を現す。しかし20代後半から難聴となり、次第に聴覚を失った。1804年に発表した交響曲第3番「英雄」以後は、次々に傑作を発表。完全に聴覚を失った後も、交響曲第9番「合唱付き」などの傑作を残した。

## PROFILE



©Jean-Baptiste Millot

### オリヴィエ・シャルリエ (ヴァイオリン) Olivier Charlier, violin

弱冠10歳でパリ国立音楽院に入学し、フルニエ、ドゥカン、ユポーに師事。プーランジェ、メニューイン、シェリングより、その才能を絶賛された。ミュンヘン国際コンクール第3位。フランス国立管、パリ管、ロンドン・フィル、ベルリン響、チューリッヒ・トーンハレ管、バーミンガム市響などと共演を重ね、オラモ、ジョルダン、ドゥダメル、デュトワらの指揮のもとソリストを務めている。室内楽にも熱心に取り組み、多数の国際音楽祭に出演。録音も多く、プラハ室内管弦楽団を弾き振りしたモーツァルトの協奏曲などで高い評価を得ている。現在、パリ国立音楽院教授。



### 齋藤 友香理 (指揮) Yukari Saito, conductor

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学をピアノ専攻で卒業。2009年よりロームミュージックファンデーション指揮セミナーに参加し、指揮を小澤征爾、湯浅勇治、コレペティートアを三ツ石潤司の各氏に師事。2010年、サイトウキネンフェスティバルにて、青少年のためのオペラ『ヘンゼルとグレーテル』(ファンパディング)を指揮し、オペラデビューを果たす。2013年から渡独しドレスデン音楽大学で研修を積む。2015年ブザンソン国際指揮者コンクールにおいて聴衆賞とオーケストラ賞を受賞。ドレスデン在住。

#### ヴァイオリン

##### ゲスト・コンサートマスター

オリヴィエ・シャルリエ  
Olivier Charlier

##### コアマナー

相川 真里奈  
Marina Aikawa

石川 千尋  
Chihiro Ishikawa

猪子 奈美  
Nami Inoko

加藤 賢太◎  
Kenta Kato

金 有里  
Yoori Kim

小島 愛子◎  
Aiko Kojima

大海 佳之  
Yoshiyuki Daikai

竹下 芳乃◎  
Yoshino Takeshita

田中 光  
Hikaru Tanaka

豊永 歩  
Ayumi Toyonaga

練木 翔  
Sho Neriki

橋本 彩子  
Ayako Hashimoto

三浦 明子  
Akiko Miura

森岡 ゆりあ◎  
Yuria Morioka

##### レジデント・プレイヤー

北島 佳奈 05.9-09.8在籍  
Kana Kitajima

##### アフィリエイト・プレイヤー

大竹 貴子 05.9-09.8在籍  
Takako Otake

##### エキストラ・プレイヤー

仁科 人美 08.9-11.8在籍  
Hitomi Nishina

#### ヴィオラ

##### コアマナー

青野 亜紀乃◎  
Akiyo Aono

丸山 緑◎  
Midori Maruyama

##### ゲスト・トップ・プレイヤー

馬淵 昌子  
Shoko Mabuchi

##### レジデント・プレイヤー

田中 啓太 12.9-15.8在籍  
Keita Tanaka

##### エキストラ・プレイヤー

吉海 めぐみ  
Megumi Yoshikai

吉田 哲章  
Noriaki Yoshida

早田 類  
Rui Wasada

#### チェロ

##### コアマナー

有梨 瑳理  
Sari Ari

サミュエル・エリックソン◎  
Samuel Ericsson

ファニー・スパンガロ◎  
Fanny Spangaro

フィリップ・バークマン◎  
Philip Bergman

アラン・ホン  
Allan Hon

#### コントラバス

##### コアマナー

浅野 宏樹◎  
Hiraki Asano

西本 俊介  
Shunsuke Nishimoto

サイモン・ポレジャエフ◎  
Simon Polezhayev

#### アソシエイト・プレイヤー

長坂 志野  
Shino Nagasaka

#### フルート

##### ゲスト・トップ・プレイヤー

曳地 まり◇  
Mari Hikichi

#### オーボエ

##### コアマナー

ヌリア・シュミット  
Nuria Schmidt

ユリア・ハンツェル◇  
Julia Hantschel

#### クラリネット

##### コアマナー

ヘルヴァシオ・タラゴナ・ヴァリ◇  
Gervasio Tarragona Valli

##### アソシエイト・プレイヤー

福井 聡  
Akira Fukui

#### バスーン

##### コアマナー

ルーカス・ボイド◇  
Lucas Boyd

トニー・リウ  
Tony Liu

#### ホルン

##### コアマナー

青木 宏樹◇  
Hiroaki Aoki

##### アフィリエイト・プレイヤー

伊藤 隆司  
Takashi Ito

#### トランペット

##### コアマナー

大西 敏幸◇  
Toshiyuki Onishi

##### アソシエイト・プレイヤー

横田 健徳  
Takenori Yokota

#### ティンパニ

##### コアマナー

チャド・クランメル  
Chad Crummel

オーケストラ・マネージャー:  
山内 雅豊  
パーサネル・マネージャー:  
大野 浩美  
ステージ・マネージャー:  
生田 修一  
ライブラリアン:  
加藤 千香子  
アシスタント・ライブラリアン:  
恵川 幸紀  
インスペクター:  
伊藤 隆司

##### ゲスト・トップ・プレイヤー スペシャル・プレイヤーのご紹介

〈ヴァイオリン〉  
馬淵 昌子  
紀尾井シンフォニエッタ東京、  
93年ミュンヘン国際音楽コン  
クール第3位  
〈フルート〉  
曳地 まり  
元N響アカデミー生 フリー奏者

※当楽団は、NPO法人イ  
エロー・エンジェル(理  
事長:宗次徳二氏)より、  
コントラバス(Januaris  
Gagliano 1776年製/  
Matteo Goffriller)を無償  
で貸与いただいています。